



梅田中だより

<第13号> **11月**

音楽祭を開催しました。

秋の優しい日差しに心が落ち着く、素晴らしい季節となりました。11月6日（金）に梅田中学校の音楽祭を開催しました。これまで子供たちは、音楽の時間はもちろん、朝や帰りの学活の時間に練習に励み、練習の時から学校中に、その素晴らしい歌声を響かせてくれました。



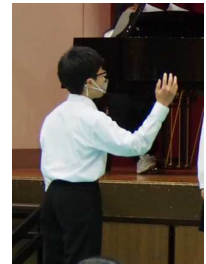
生徒会長からの話



音楽担当からの話



全校生徒で校歌斉唱



1年生の軽やかな指揮

それぞれのクラス全体で、さまざまな壁を一つ一つ乗り越えて、今日の美しい歌声ができあがってきたと思います。例年であれば、伴奏をする生徒や指揮を担当した生徒は、夏休みの前から練習に励むことができたはずでした。

しかし、今年は、コロナウイルス感染症の影響で、直前まで音楽祭が開催できるかどうか分かりませんでした。開催が決まってからは、猛特訓をしてきていたのが印象的です。これまでに練習をしてきた過程で得た経験が、子供たちの「今後の生きる力」になると感じています。本当にお疲れ様でした。



1年生「地球聖歌」 ～笑顔のために～



2年生「生きている証」



3年生「ヒカリ」

1年生は、中学生になって本格的に3部合唱をするのは初めてでしたが、旋律を大切にしながら丁寧に歌えていました。今後は男子が変声期を迎え、重厚感のある低音が響くようになると、さらに美しい歌声になると思いました。

2年生は、男子の力強い歌声と女子の繊細な歌声がよく調和して、美しいハーモニーを奏でていました。たくさん練習を積み、その自信が表れていたと思います。さらに、力を伸ばし、来年がとても楽しみです。

3年生は、一人一人が自分のパートの役割を自覚し、自信を持って歌いきっていたのが印象に残りました。梅田中の代表として、胸を張って、どこに出しても恥ずかしくない出来映えでした。とても素晴らしかったと思います。

先日の11月2日（月）の全校集会の中で、子供たちに「音楽には、人の心を動かす大きな力がある」という話をさせてもらいました。音楽祭当日は、各学年1曲のみの発表でした。しかし、どの生徒も集中し、これまでの練習の成果を最大限に発揮して、歌いきっていました。ご参観いただいた保護者の皆様にも、子供たちの歌に込めた想いが、きっと伝わったのではないかと思います。



2年生の
リズムカルな指揮



3年生の
ダイナミックな指揮



生徒たちは間隔をとり、スクをして
感染予防をした上で合唱を聴きます



保護者の皆様にもマスクの着用を
お願いしての参観となりました

コロナ禍の中、どれもこれも、これまでとは違った配慮がなされる中での音楽祭でした。短期間ではありましたが、練習をした成果を十分に発揮した子供たちの歌声は、多くの人に感動を与えることができたと思います。

お忙しい中、ご来校いただいた保護者の皆様には、心より、感謝を申し上げます。

梅田地区での次世代モビリティ導入への 検証実験に梅田中学校も協力しました。

以前、梅田地区では「次世代モビリティの導入による持続可能な地方都市モデルの構築」を目指し、桐生市社会福祉協議会と群馬大学大学院理工学府が相互に協力して検証実験を行っているという学校だよりの第11号でお伝えしました。

11月5日（木）は、梅田中学校の3年生がこの検証実験に協力しました。まず、最初に群馬大学院理工学府の天谷賢児教授から、桐生のこれまでの歴史と、次世代に向けた暮らしやすい社会づくりのためには、今後、どのような整備が必要になるのかそして、将来、梅田町が高齢化社会を迎え、人々の安全な移動方法の開発とその活用についてのお話をいただきました。



そして、桐生市地域包括支援センターの渡辺幸恵様から、将来、高齢化を迎えた時に、能を活性化させ、高齢者の認知症を予防する「シナプソロジー」を体験しました。（シナプソロジーとは、「2つのことを同時に行う」「左右で違う動きをする」という、普段慣れない動きで、脳に適度な刺激を与え、活性化を図ることなのだそうです。）

子供たちは楽しそうに取り組んでいました。さらに、今後、高齢化社会を迎え、65歳以上の年齢の方が人口に占める割合を説明されました。思った以上に、その占める割合が高いことに、再度、気づかされました。

※今後、65歳以上の方が人口に占める割合

1975年	7.9%	2025年	30.0%
2005年	19.6%	2065年	38.4%
2015年	26.6%		



11月5日の検証実験での生徒の様子です。活発な意見交換とプレゼンテーションを行い、梅田町の今後について真剣に考えました。

その後、生徒は4班に分かれて、実際にMAYUへ乗車し、MAYUの運行状況を確認するグループと、「将来の住みよい梅田の町づくり」をテーマとしてグループディスカッションを行いました。生徒たちが考えたテーマは、今後、梅田地区の高齢化が進み、自分で自動車の運転ができなくなった場合の移動手段として、低速電動バス（MAYU）が、どのように活用できるか。そして、いつか自分たちも年をとったときに、どのようにして自分の行動を支援してくれるモータリゼーションが存在したらよいのかを真剣に考えました。



MAYUに乗車して、ふるさと梅田地区の魅力を再発見した生徒たち。MAYUの運転手さんとも仲良くなり、一緒に記念撮影をしてもらいました。



梅田中学校 学校通信 「梅田中だより」 <文責 阿部 誠二>
TEL 32-1018, FAX 32-1039

URL <http://www.kiryu-umeda-j.ed.jp/>

上のQRコード 又はURLから梅田中学校のWebページをご覧いただけます。

※ ホームページの更新を随時しております。写真もカラーで掲載しておりますのでご覧下さい。